

〒975-0031

福島県南相馬市原町区錦町一丁目30番地

TEL:(0244)26-1315

FAX(0244)26-1318

E-mail:sousou.kyouiku@pref.fukushima.lg.jp

## 第2回地域家庭教育推進相双ブロック会議

日 時：令和7年1月20日（月）13:30～15:45 会 場：南相馬合同庁舎401会議室

参加人数：構成員 23名 事務局 3名

ねらい 相双域内の社会教育関係者やPTA関係者等による家庭教育の推進や地域教育力の向上を図るため、家庭教育及び地域教育の課題やその方策を協議する。

- 1 開 会（13：30）
- 2 事業説明（13：40～14：10）
  - （1）令和6年度相双ブロック会議の概要（事務局）
  - （2）「親子の学び応援講座」実施内容（事務局）
  - （3）家庭教育応援企業の取組（相馬中央病院 様）
  - （4）令和7年度相双ブロック会議の基本方針（事務局）
- 3 協 議（14：20～15：40）
- 4 閉 会（15：40）



### 【家庭教育応援企業の取組について】

相馬中央病院の施設管理室長である横山和雄様から、家庭教育応援企業としての活動を報告していただきました。

『医療機関には専門性の高い人材が揃っているが、相双地区では人材確保が難しい現状があります。そのため、既存の職員を大切に、不安なく働ける環境作りが求められています。特に、女性職員が中心になって活動しているため、出産後の職場復帰を促すための施策が必要です。その一環として、約8年前に職員の子どもを預かる取り組みを開始しました。具体的には、病院の福利厚生施設を利用し、勤務中の職員の幼稚園以上の子どもを預かるようになりました。』



また、長期休暇中には、体験学習や遊びを通じて子どもたちの成長を支援しています。田植え体験やいちご狩りなどの活動を行うと共に、職員の子どもに保護者の仕事を見学する機会を設けることで、医療への興味も育てています。さらに、地域の保育園との連携を強め、子どもたちに健康に関する体験活動を提供する取り組みも行っています。また、大熊町の放課後児童クラブへのボランティア活動や、学習支援にも力を入れ、職員による勉強教室も開催しています。』

このように、相馬中央病院は地域貢献を重視し、少子化の影響を受ける中で医療分野の人材育成も目指しています。将来的には、地域に貢献する医療従事者の増加も願っています。相馬中央病院の家庭教育応援企業としての活動は、地域の子どもたちが安心して生活できる環境作りに、引き続き尽力していく意向を示していました。

### 【グループごとの協議内容について】

【A班】課題に対して、言葉の選び方について適切な表現への修正を提案しました。特に「経済的困窮」や「精神疾患」といった表現は受け取る側に配慮した言葉にする必要があるとの意見がありました。また、メディアとの関わり方についても見直しが必要で、批判だけではなく、子ども達が自らのなりたい姿を想像し、メディアをコントロールする方法を考えるべきだと指摘しました。『子どもの未来を育む家庭教育3つの提言』（以下『3つの提言』）を広める方法としては、キャッチコピーの重要性和、子どもたちの声を尊重すること、環境整備の重要性も提案しました。 【裏面へ】

【B班】「遊びの中でのルールを守れなくなっている」という課題に関して、現代の子どもたちは相互関係を築く力を持っているため、この表現は当てはまらないのではないかと意見が出ました。また、外遊びの機会に関する課題は見直しを求め、制限はある中で自由に遊べる時間は確保されていると指摘しました。実践案の中の、「スマホに触れる時間の制限」に対する抵抗感があったことから、あまり家庭に干渉しない形での情報提供が必要です。『3つの提言』を広める方法として、地域行事などでのPR活動の必要性が挙げられました。



【C班】必要のない課題を削減する方向で意見をまとめました。特にルールを守ることの重要性やコミュニケーション能力について、現代の子どもにとっての実情をきちんと捉えた内容に変更した方が良いという提案がありました。また、学校、家庭、地域の時間のバランスを考える必要があるという点が重視されています。さらに、保護者の過干渉の問題も指摘しつつ、過度な介入は望ましくないという意見も出されました。

【D班】特に双葉郡では、保護者向けの研修や学習が不足しているという現状が指摘されました。そのため、気軽に相談できる場として茶話会の提案がなされました。次に、隣近所との関わり不足についても言及し、核家族化が進む中で高齢者とのつながりの重要性が述べられました。最後に、教員や親に向けたアンガーマネジメント研修の必要性が取り上げられ、教育環境での改善も求めました。このように、複数の課題や提案が出され、社会全体での取り組みやコミュニケーションの重要性が再確認されました。

【E班】家庭に浸透不足の『3つの提言』に関する調査の必要性を提案しました。調査の目的は、1つ目は子どもや大人の意向を把握することです。例えば、地域の子もたちが運動する場に対する認識を知り、受け止め方を明確にすることで、子どもたちがどのように感じているのか、または何が影響しているのかを明らかにすることを目指しています。2つ目は、大人が日常的に子どもとの関わりを振り返る機会を提供することが挙げられます。最近、親たちからは子どもと話す機会が減少しているとの意見が聞かれており、この調査を通じて、大人がどのように子どもと関わっているかを考えるきっかけも得ることが期待されます。

### 3 鈴木座長からの総括

相双地区での防災・減災への取り組みは常に頭に置いておかななくてはならない。特に3.11の震災を振り返ることが大切である。また、地域の連携が重要であり、個々の自治体や学校だけではなく、隣接するエリアと協力して目標を掲げる必要性がある。

さらに、スローガン作成を通じて、地域と教育をつなげていくことである。また、ネガティブな視点から脱却し、ポジティブな提案や行動指針を持つことが大切である。また、SNSやメディアの影響についても触れ、子どもたちがメディアに依存する現状を踏まえた上で、SNSに勝る楽しみや教育的価値のあるリアルな体験が大切である。

教育の責任は学校だけではなく、家庭にも大いにあり、親も子どもの意見を尊重することが重要である。また、地域の絆や家庭間のつながりが復興に向けた鍵である、相双地区特有の課題や良さを踏まえた家庭教育の発展が求められる。

改めて、家庭教育は、このプロセスを見つめ直す必要がある。



### 相双地区の小中学生のみなさんへ

家庭教育推進相双ブロック会議では、子ども達、お家の方、地域の方が笑顔で楽しく生活できるように、いろいろな話し合いをしています。そこで、小学生と中学生の意見も聞いてみたいという事になりました。相双地区が楽しくなるようなアイデアを生み出すために簡単なアンケートに答えてもらえるとうれしいです。タブレットなどで、右にあるQRコードから、答えてみてくださいね！

